

## 第 16 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 2 月 13 日（火）

18 時～19 時 30 分

会場：長野県伊那合同庁舎 講堂

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 挨 拶

#### 3 会議事項

(1) 第 15 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 【 資料 1 】

(2) 再編実施基本計画策定に向けて

ア 上伊那総合技術新校（仮称）の施設整備について 【資料 2、3】

イ 上伊那総合技術新校（仮称）再編実施基本計画について 【 資料 4 】

ウ 学校像のイメージについて 【資料 5、6】

(3) 今後の検討内容等について

ア NSDプロジェクトの先行事例について 【 別冊資料 】

(4) その他

#### 4 その他

#### 5 閉 会

## 上伊那総合技術新校「新校再編実施計画懇話会」構成員

○印：令和6年2月からの構成員

区分	氏名	所属等	役職等
自治体	山田 勝己	辰野町	副町長
	浦野 邦衛	箕輪町	副町長
	田中 俊彦	南箕輪村	副村長
	小平 操	駒ヶ根市	副市長
	笠原 千俊	伊那市教育委員会	教育長
	加藤 孝志	宮田村教育委員会	教育長
	唐澤 直樹	上伊那広域連合	事務局長
産業界	松井夕起子	辰野町商工会	代表
	漆戸 豊徳	箕輪町商工会	代表
	堀井 一政	南箕輪村商工会	工業部会長
	山下 政隆	駒ヶ根商工会議所	副会頭
	向山 賢悟	伊那商工会議所	副会頭
同窓会	篠平 良平	辰野高等学校同窓会	会長
	小河 節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長
	清水 満	上伊那農業高等学校同窓会	会長
	鈴木 正志	駒ヶ根工業高等学校同窓会	会長
PTA	矢澤 弥彦	辰野高等学校PTA	副会長
	城取 誠	箕輪進修高等学校PTA	会長
	大澤あまな	上伊那農業高等学校PTA	副会長
	宮下 陽子	駒ヶ根工業高等学校PTA	副会長
学校関係者	有賀 泰司	上伊那中学校長会（東部中学校長）	副会長
	島尻理恵子	上伊那小学校長会（中沢小学校長）	副会長
	原 潤	伊那養護学校	校長
学識経験者	松島 憲一	国立大学法人信州大学農学部	教授
	武久 泰夫	南信工科短期大学校	副校長
地域	布山 澄	上伊那地域振興局	局長
統合対象校関係者	茶城 啓二	辰野高等学校	校長
	小林 敏明	箕輪進修高等学校	校長
	平沢 一	上伊那農業高等学校	校長
	福澤 竜彦	駒ヶ根工業高等学校	校長
	宮澤 奨英	辰野高等学校	生徒会副会長
	○酒井 輝也	箕輪進修高等学校	生徒会長
	根津 柚希	上伊那農業高等学校	生徒会長
	小山 将幸	駒ヶ根工業高等学校	生徒会長

### 【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰野	齋藤 美幸（教頭） 藤森 和浩 丸山 末広
箕輪進修	岩田今朝宣（教頭） 田中 俊生
上伊那農業	塩原 慎一（教頭） 境 久雄 山下 昌秀 若林 誠司
駒ヶ根工業	藤田 晶子（教頭） 竹内 浩一 甕 力 和田 和代

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	中島 秀明	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	田中 聡	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 多恵子	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

## 第15回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

<b>日時・会場</b>	令和6年(2024年)1月22日 18時00分～18時40分 長野県伊那合同庁舎 講堂
<b>出欠席</b>	懇話会構成員：出席者29名、欠席者5名 (欠席者：向山賢悟、矢澤弥彦、城取 誠、宮下陽子、松島憲一(敬称略)) 事務局：県教委2名(中島主幹指導主事、田中主任指導主事) 辰野高校3名、箕輪進修高校2名、上伊那農業高校4名、駒ヶ根工業高校4名
<b>傍聴者</b>	傍聴7名、報道5社(オンライン含む)
<b>会議事項</b>	(1) 第14回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 校地選定の結果報告について
<b>当日資料</b>	第15回懇話会(資料1、2)、校地選定の結果報告について(資料3)

### 主な内容(意見及び発言等、→事務局回答 ◎座長のまとめ)

<p>(新構成員3名の自己紹介)</p> <p>会議事項について</p> <p>(1) 第14回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(資料1、2の説明、質疑、意見聴取) 第13回懇話会でのグループ討議で構成員から出された主な意見・発言の確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局からの資料説明 (質疑、意見なし。)</li> </ul> <p>(2) 校地選定の結果報告について(資料3の説明、質疑、意見聴取)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局からの資料説明 (質疑、意見なし。)</li> </ul> <p>◎県教育委員会の報告のとおり、本懇話会においても、上伊那総合技術新校(仮称)は上伊那農業高校の校地校舎を活用することに同意する。それに基づいて再編実施基本計画の案を作成いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局補足 次回懇話会で再編実施基本計画に向けた高校再編推進室の考え方を示し、県教育委員会の定例会で決定していく予定。</li> </ul>
---

### 今後の検討事項

○開校年度、募集想定学級数等を検討し、懇話会で示す。今後、県教育委員会で再編実施基本計画を決定する。
--

### その他

<p>【次回】 日時：令和6年2月13日 18:00～19:30 場所：長野県伊那合同庁舎 講堂 内容：再編実施基本計画(案)についての意見交換等</p>
---

Nagano School Design 2020 + A

# Nagano School Design プロジェクト ～上伊那総合技術新校～

みんなで作る未来の学校  
「学校づくり-ひとづくり-地域づくり」

高校教育課  
高校再編推進室

## NSDプロジェクトとは【これまでの経過と理念】

### 施設の老朽化を考慮しつつ、必要な学校施設の整備を行う

1950年 文部省（現文部科学省）・日本建築学会  
「鉄筋コンクリート造校舎の標準設計」を作成

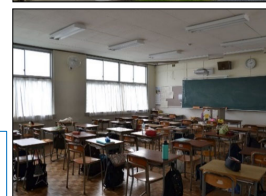


長野県の県立学校でも、似たづくりの校舎が多数存在

この70年ほどの間に社会は大きく変化



「学び」や「学び方」の変化に伴い、学校の「づくり」や「づくり方」を見直し  
これからの時代 これからの学びにふさわしい学校空間の整備



教室棟（1968年建設）



## 県立学校学習空間デザイン検討委員会 最終報告書「長野県スクールデザイン2020」 (2020年8月)

これからの時代：変化が激しく予想困難な時代

- 1 どんな時代や状況にも対応できる、フレキシブルな空間

これからの学び：主体的な学び、探究的な学び／個別最適な学び、協働的な学び

- 2 いろいろな学び・さまざまな人数 ⇒ 多様性をもつ学びの空間

学習空間の捉え直し：生徒・教職員・地域にとって必要な要素を包含した施設

- 3 「学習」「生活」「執務」「共創」という4つの要素に整理

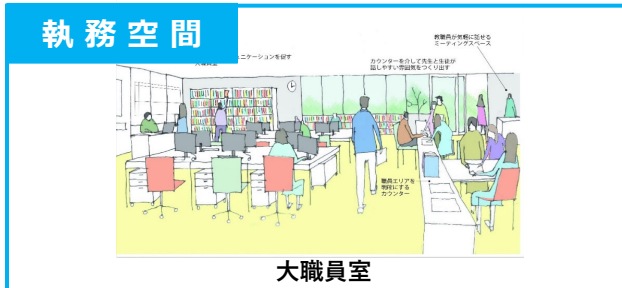
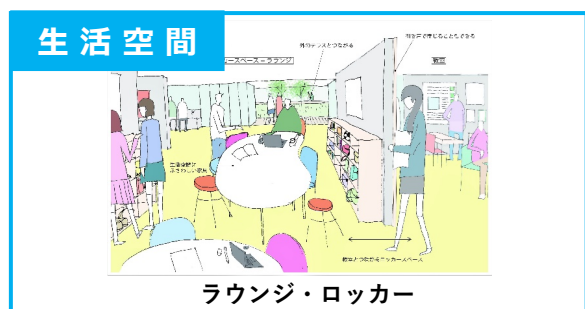
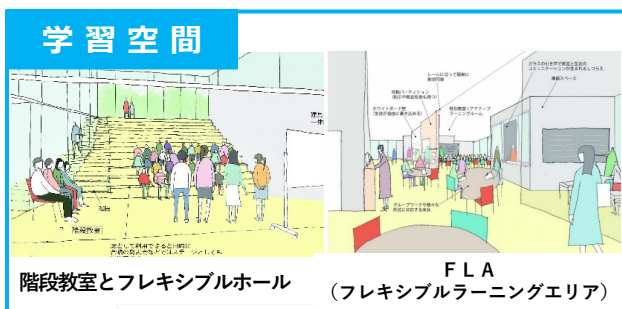
空間の「質」：子どもたちが生き活きと過ごす空間

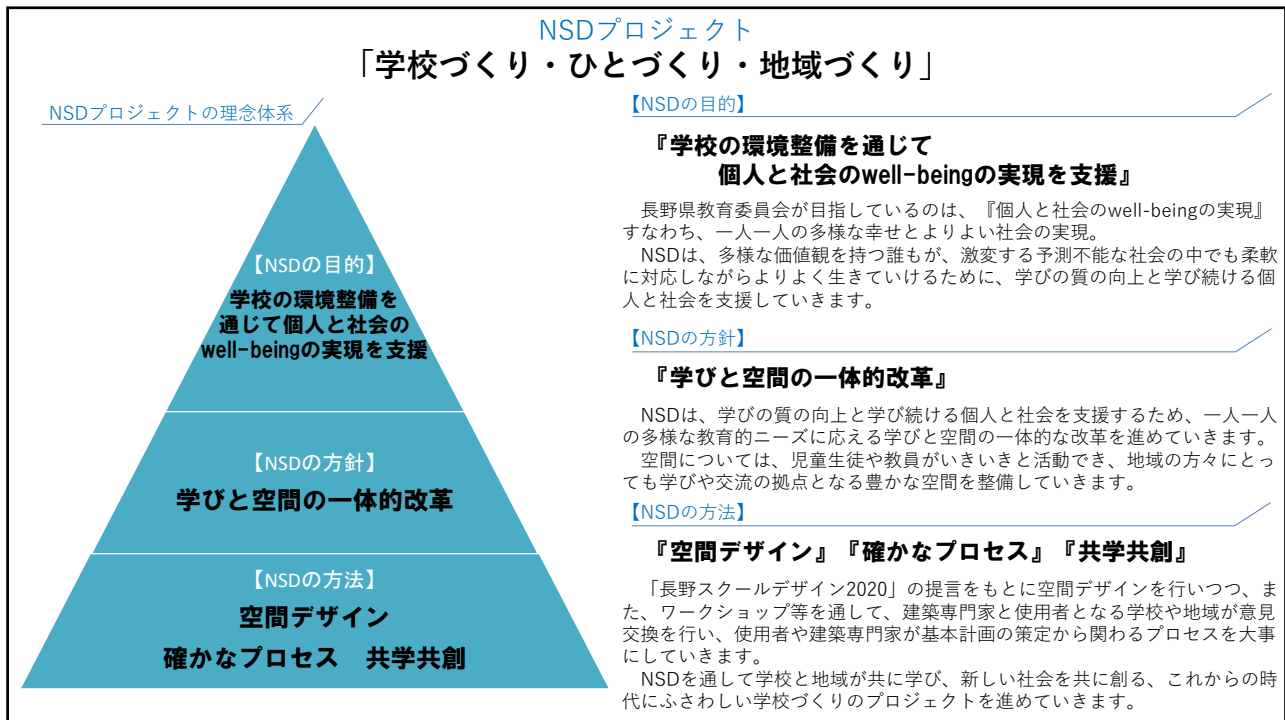
- 4 機能性と快適性、空間の「重ね使い」、屋外とのつながり、家具などの重要性

地域と共生する学校：地域にとってのかけがえのない拠点施設

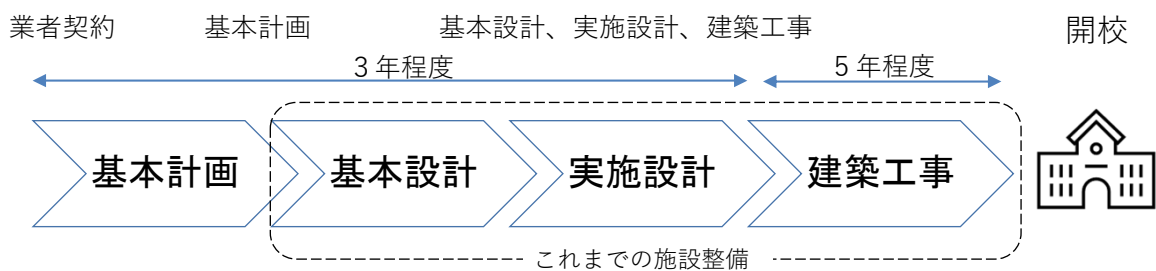
- 5 県の多様な自然環境・地域性を考慮、地域施設との連携や役割の分担を検討

## 県立学校学習空間デザイン検討委員会 最終報告書「長野県スクールデザイン2020」 (2020年8月)





## 施設整備のスケジュール（おおまかな予定）



NSD方式 基本計画から工事監理まで建築専門家が参画

### これまでの施設整備

- ・基本計画について、県教委及び営繕部局で策定（画一的な施設整備）
- ・基本設計から建築専門家が参画（意見の反映できる幅がせまい）

### NSDの施設整備

- ・基本計画から建築専門家が参画し、生徒、教員、地域と意見交換を重ねながら策定

**生徒、教員、地域の意見を設計に反映しやすいプロセス！**



ガラス展示棚の作品越しに、  
中の作業風景が見える

## NSDプロジェクト 各新校の進捗の様子はこちら

長野県ホームページより【URL】  
[https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/nsd/nsd\\_toppage.html](https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/nsd/nsd_toppage.html)



## 県立学校学習空間デザイン検討委員会 最終報告書「長野県スクールデザイン2020」はこちら

長野県ホームページより  
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/koko/dezain/toppage.html>



「想い」や「考え」を「かたち」にするために、  
実際にプロダクト（制作物）に具現化

議論などを通じて目々の  
手を動かしながら試行  
何かを創造するための  
実験やワークショップ等を  
備えた「クリエイティブラボ」

## 上伊那総合技術新校（仮称）の施設整備について

R6. 2. 13 現在  
 高校教育課・高校再編推進室

施設整備に関する概ねの工程は、次のとおりと考えられます。

### 1 施設整備の基本コンセプトについて

県立高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し、NSD の考え方や ZEB 化等による新しい時代にふさわしい学校施設への転換を図り、質的向上の実現を目指していきます。

(NSD…長野県スクールデザインの略、ZEB…Net Zero Energy Building の略)

### 2 施設整備のポイントについて

○新校の開校に向けた所要施設（校舎等）の整備等については、従来の標準的な校舎整備によらず、新たな視点を加えて進めていきます。

《新たな視点》

・ ZEB 化の推進

自然環境を最大限活かす建築的工夫、設備の省エネルギー化+創エネルギー など

・ 学習空間デザイン・面的整備

施設全体を考え、探究的な学びに対応した使いやすい学習空間を創出 など

### 3 上伊那総合技術新校の施設整備に係る概ねの工程について

#### (1) 統合に係る県議会の同意



#### (2) 設計関連業務（予算措置を県議会で議決）

##### ① NSD による施設整備基本計画の策定

- ・ プロポーザル方式で事業者を選定
- ・ 新校の学校施設（学習空間デザイン等）の全体構想を策定

##### ② 整備する施設の基本設計

##### ③ 整備する施設の実実施設計

設計関連業務  
 (①～③) の  
 所要期間は、  
 概ね 3 年程度



#### (3) 工事関連業務（予算措置を県議会で議決）

##### ① 施工業者との契約まで概ね半年程度（県議会で議決）

##### ② 契約後の工事期間は、上記基本計画の中で検討する。

（第一期再編校の例によると、概ね 5 年以上見込まれる）

新校舎の工事完了まで、概ね 5 年程度は必要

## 上伊那総合技術新校（仮称）再編実施基本計画について

現時点では、以下のとおり想定している。

### 1 再編統合対象校

辰野高等学校（商業科）、箕輪進修高等学校（工業科）、上伊那農業高等学校、駒ヶ根工業高等学校

### 2 募集開始年度

令和 14 年度以降のできるだけ早期とする。

### 3 活用する校地校舎

上伊那農業高等学校

### 4 設置課程・学科及び想定する募集学級数

全日制課程、農業科・工業科・商業科を設置し、募集学級数は7学級程度とする。

ただし、新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

### 5 新校の学びのイメージ

資料6 のとおり

## 自己を磨き、未来をデザインできる力を育てる高校

各科の学びを活用・連携した課題研究

探究的な学び

### 農業

野菜・果樹・植物・動物  
フード・アグリ・里山・グローバル

### 商業

マーケティング・流通  
会計・まちづくり

### 工業

機械・電気  
情報技術

資格検定

多様な学び

学校行事

キャリア教育

安全教育

生徒会活動

クラブ活動

### 上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域の活性化や地域の課題解決、イノベーションを創出できる生徒を上伊那で育てるためのコミュニティ

### 学びを支えるデュアルプラットフォーム

### 学びの連携プラットフォーム

興味・関心によって、他学科・コースの学びを選択し、専門性を深め、幅を広げる

上伊那広域連合

各市町村

産業界

地域連携  
コーディネータ

企業

幼保小中高大特支

JICA

ミックスホームルーム

新たな単位認定

デュアルシステム

プレゼン室

ウエルビーイングルーム  
(多目的室)

ミニ工房  
(連携実習室)

#### 【育てる生徒像】

- ・上伊那で学び、地域・社会を元気にできるひと
- ・専門性・社会性や人間力を育み、地域や自分自身の未来をデザインできるひと
- ・多様な人々との協働を通して、主体的に行動し、学び続けることができるひと
- ・幅広い視野や、多様な価値観を持ち、学びを活かして、社会に貢献できるひと

#### 【目指す学校像】

- ・専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農工商の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる学校
- ・多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウエルビーイング」\*を実現できる学校
- ・生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会のみらいを創造できる学校
- ・上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が成長できる学校

\*身体的・精神的・社会的に良い状態にあること

デザインは「上伊那で育てる」を中央アルプス・南アルプス・天竜川でイメージしています



上伊那総合技術新校の学校像のイメージ

自己を磨き、みらいをデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

- 上伊那で学び、**地域・社会を元気に**できるひと
- 専門性・社会性や人間力を育み、**地域や自分自身のみらいをデザイン**できるひと
- 多様な人々との協働を通して、**主体的に行動し、学び続ける**ことができるひと
- 幅広い視野や、多様な価値観を持ち、**学びを活かして、社会に貢献**できるひと

目指す学校像

- 専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農工商の連携により、**新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献**できる学校
- 多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「**ウェルビーイング\***」を実現できる学校
- 生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会の**みらいを創造**できる学校
- 上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が**成長**できる学校

\*身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那のみらい

農業

動植物の命や自然環境を通して、**食料生産や環境保全を学ぶ**

〔 野菜・果樹・植物・動物・フード  
アグリ・里山・グローバル 〕

商業

経済活動の実践を通して、**ビジネスに必要な知識・技術を学ぶ**

〔 マーケティング・流通  
会計・まちづくり・起業 〕

工業

ものづくりを通して、**地域・社会を支える産業技術を学ぶ**

〔 情報技術・機械・電気 〕

学びの連携プラットフォーム

興味・関心によって、他学科・コースの学びを選択し、専門性の幅を広げるシステム

ミックスホームルーム  
3科融合したホームルーム

新たな単位認定  
学校外学修の単位認定  
学校間連携による単位認定等

3科協働を支える施設  
プレゼンルーム・クリエイティブラボ（協働実習室）  
ウェルビーイングルーム（協働研究室）等

- 学科の枠を越えた学び**  
学科の枠を超えた学びの実践により、「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等の調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献する資質・能力の育成
- みらいの産業界のつくり手の育成**  
様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的・多面的な職業能力を育む

- 3科連携により、1年次から地域で探究し、3年次には地域に発信する課題研究
- DX時代の専門教育（AI・データサイエンス・プログラミング・メタバース・ドローン等）
- 経験や体験を重ねた実践力の向上を目指す専門高校ならではのキャリア教育
- 専門高校での学びを最大限に活かした資格・検定への挑戦

学びを支えるデュアルプラットフォーム

地域連携コーディネーターによる連携

デュアルシステムの構築

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、さらにはイノベーション創出に貢献できる生徒を上伊那で育てるシステム

市町村

上伊那広域連合

信州大学

南信工科短期大学校

産業界

青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)

各種学校(幼保小中高特支)



## 2-1 既存校舎をつなぎ補う配置計画 C 東側配置

新校舎は既存校舎をつなぐように南北にのびる配置とし、既存校舎/新校舎間で回遊動線をつくり、3科が融合するような関係性をつくります。また新校舎は地下1階をグランドレベルに、2階を既存校舎2階に合わせ、1階レベルをピロティとして開放することで、**既存校舎、その周囲の屋外空間、擁壁で分断されているグランドの関係性を再構築します**

新校舎と新第二体育館・第一体育館を2Fレベルでブリッジでつなぐことで既存校舎からスムーズな移動が可能になります

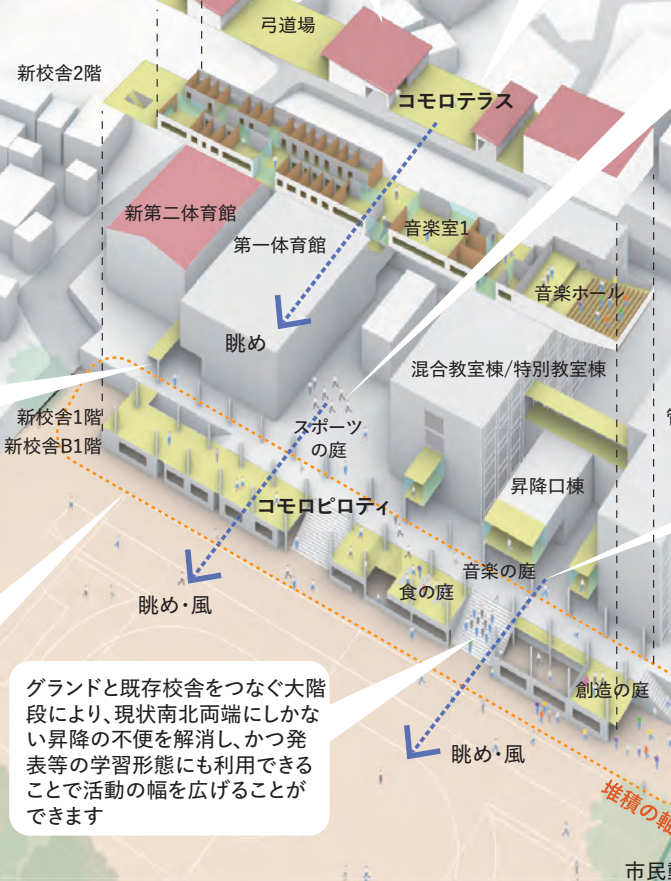
演奏会や送迎等の駐車スペースが十分確保できます

南北に長い新校舎は、地域連携協働室や部室、音楽科諸室、発表やイベントに使える大階段など、生徒と市民の活動のモノとコトが堆積していくような場所となります

グランドと既存校舎をつなぐ大階段により、現状南北両端にしかない昇降の不便を解消し、かつ発表等の学習形態にも利用できることで活動の幅を広げることができます

新校舎弓道場や新体育館は木造架構を検討し軽量化を図ります

新校舎の屋上に小諸の風景を望むことができるテラスをつくります



**コモロピロティと庭**  
四季を通じて入学式、文化祭、体育祭、小商祭、定期コンサートやその準備が行われる新校の舞台となります

既存校舎の棟間の屋外空間からの抜けを確保しつつ拡張して、することで、屋外空間を介して校舎間の関係を再構築します。

地域連携協働室を南端に配置することで、市民の南側からのアプローチがスムーズになります



- 広い平面形が取れるため教室配置計画に柔軟性がある
- グランドに影が落ちない
- 南面採光が可能
- × 解体完了後の着工となるため工期がかかる
- × 解体完了後の着工となるため部活に影響がでる
- × 既存管理棟や昇降口からの距離が遠い
- × 既存校舎との接点が限定的
- × 既存校舎の改修計画と関係が希薄になる
- × 地域連携協働室は街に対して遠くなる
- × 近隣住宅への圧迫感や音の影響が大きい
- × サッカーコートが公式サイズより小さくなる

- 解体を待たずに着工できるため工期が短縮
- 広い平面形が取れるため教室配置計画に柔軟性がある
- 地域連携協働室は街に対して近く配置できる
- 南面採光が可能
- × 既存校舎との接点が限定的
- × 南側アプローチに対して圧迫感がある
- × 既存校舎の改修計画と関係が希薄になる
- × 第一・第二体育館との動線が長くなる
- × 近隣住宅への圧迫感や音の影響が大きい
- × サッカーコートが公式サイズより小さくなる
- × グランドに比較的長く影が落ちる

- 独立して建つ既存校舎と体育館をつなぐ配置となるため、3科のみならず活動全体を一体的に計画できる
- 将来的な既存校舎建替えに際しても今回の形式を継承できる
- 既存校舎間の屋外空間を生かした改修と一体的な計画が可能
- サッカーコートが公式サイズで計画できる
- 浅間山/千曲川/棚田など街を構成する自然地形に沿った風景に位置づく配置である
- 既存各棟を動線的につなぐ形式のためバリアフリー化の検討も対応可能
- △ 一部着工が第二体育館の解体後になる(工期への影響は限定的)



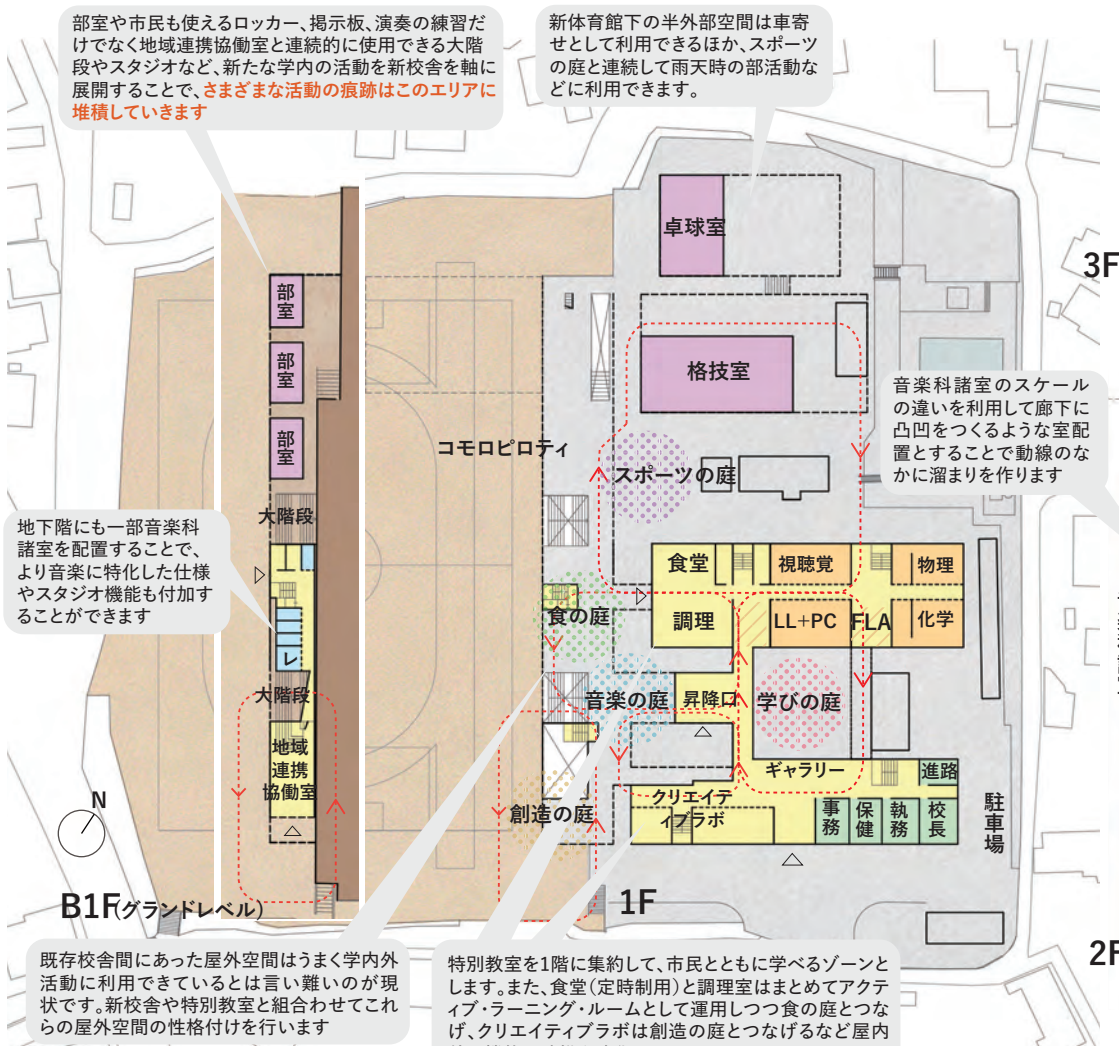
南北に長い新校舎は、学校と街の活動によるモノやコトが堆積していく軸となり、雄大なランドスケープに対してアクティビティがファサードになっていきます。



地域連携協働室から大階段を通じて、昇降口、さらに上部にある音楽ホールへと動線につながります。1階のコモロピロティでは、共創の場としてさまざまな活動が展開されます。



学内活動も街の活動も、生活や発表や研究といった諸活動として融合していく、その拠点になります。



部室や市民も使えるロッカー、掲示板、演奏の練習だけでなく地域連携協働室と連続的に使用できる大階段やスタジオなど、新たな学内の活動を新校舎を軸に展開することで、**さまざまな活動の痕跡はこのエリアに堆積していきます**

新体育館下の半外部空間は車寄せとして利用できるほか、スポーツの庭と連続して雨天時の部活動などに利用できます。

音楽科諸室のスケールの違いを利用して廊下に凸凹をつくるような室配置とすることで動線のなかに溜まりを作ります

回遊動線のなかにFLAなどを位置づけ、新旧校舎を一体的に使ったおらかな学びの空間をつくります

職員室を集約し、3科間の職員の交流を促します

**平面計画:**  
既存校舎の片廊下・中廊下の標準設計による教室配置形式に対して、南北に廊下を持つシンプルな平面形状の新校舎を接続させることで、回遊性のある校内動線に改修・改善することができます。標準設計による校舎増改築の汎用性のある手法となります。



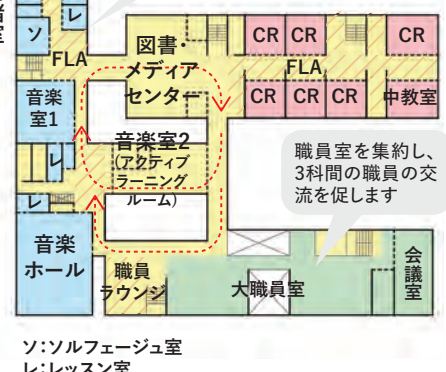
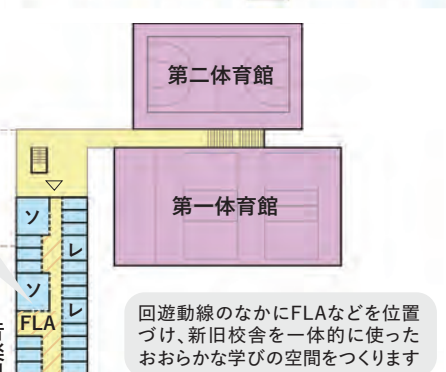
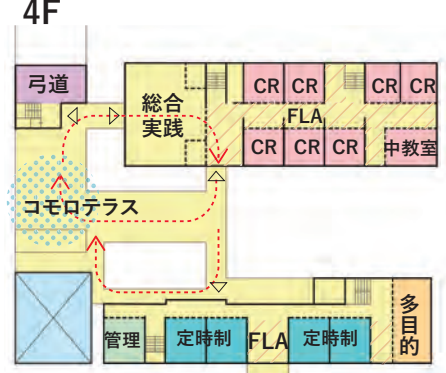
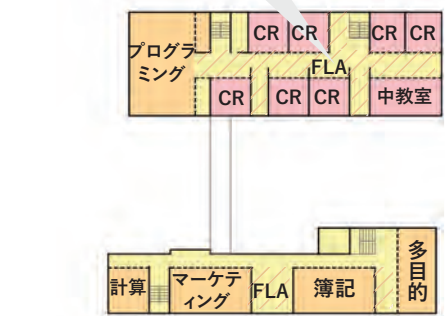
図書・メディアセンターに隣接するFLAは、3科の回遊動線上にあるため、可動の本棚を持ち込むことが可能で、調査や研究などの共同プロジェクトの運動性が高い配置になっています。



地域連携協働室やグランドとの結びつきが改善された既存校舎間の各庭を望む回遊動線は、3科と街の融合が象徴的に現れる場所となります。

### 小諸新校舎 プロポーザル時点

既存教室数は今後3科のカリキュラムで決定していくこととなっていますが、廊下幅を十分拡幅し、FLAとして多様な学びができるように整備します

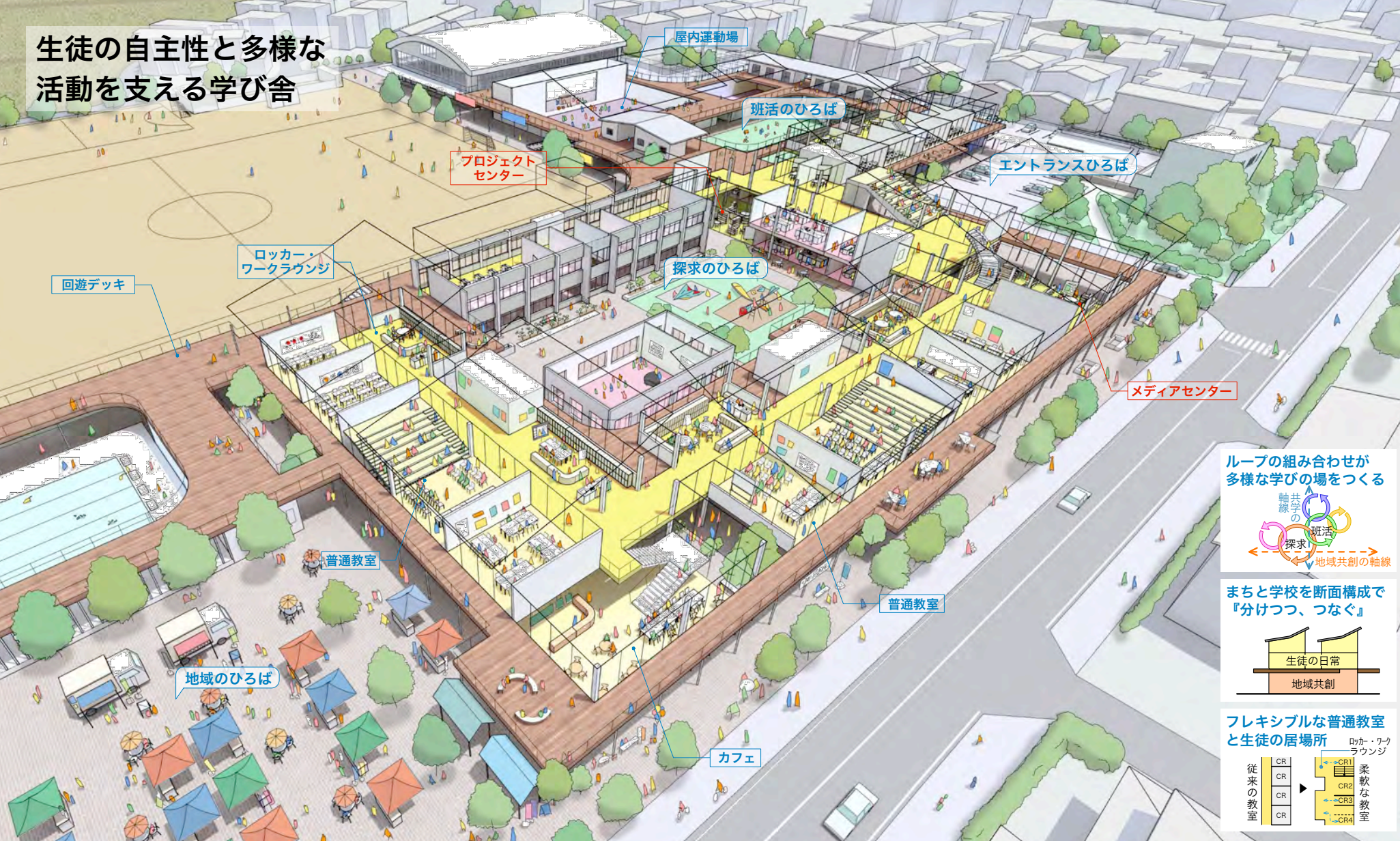








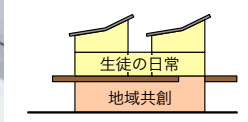
# 生徒の自主性と多様な活動を支える学び舎



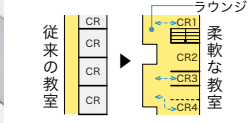
ループの組み合わせが多様な学びの場をつくる



まちと学校を断面構成で『分けつつ、つなぐ』



フレキシブルな普通教室と生徒の居場所



●まち全体への「学びの広がり」を実現する校舎配置  
 ・「共学共創」空間が通りに面して地域に開かれ、休日や放課後にも探究活動が可能な配置計画を検討します。地域と共に学ぶ学校です。  
 ・老朽化著しい既存建物は除却、活用可能な建物は存置します。

配置検討案	A: 北側建築案(1段階整備)	B: 南西側建築案(1段階整備)	C: 南東建築案(2段階整備)
	<p>①既存棟を全て残り運動場に新校舎を建設                      ②校舎棟を解体し跡地を運動場として整備                      ※仮校舎は不要</p>	<p>①既存棟を一部解体し、南西側に新校舎を建設                      ②教室棟を解体しロケリ、運動場2を整備                      ※仮校舎は不要</p>	<p>①既存棟を一部解体し、南西側に新校舎の一部と仮校舎を建設                      ②教室棟を解体し、新校舎の一部と屋内運動場、武道場等を建設</p>
A	◎除却は最小限で、整備面積が小さい	△既存棟を追加除却、整備面積は増加	△老朽化著しい棟を除却、整備面積は増加
B	×共学共創空間が南側道路から遠い	×既存建物との距離が遠く、配置が散漫	◎南側道路に面し、既存棟との連携が容易
C	×車動線と運動場が近接、駐車場が困難	×広いロケリが確保できる	◎学校と送迎、定時制等の車動線が分離可能
D	×面積が狭く住宅に近い	×面積が狭く、運動施設のみとまりがない	◎既存同等の広さで、まとまりが良い
E	△工事中に運動場はないが工期短縮が可能	△工事中に屋内運動場、武道場等がない	△工事中に屋内運動場、武道場等がない

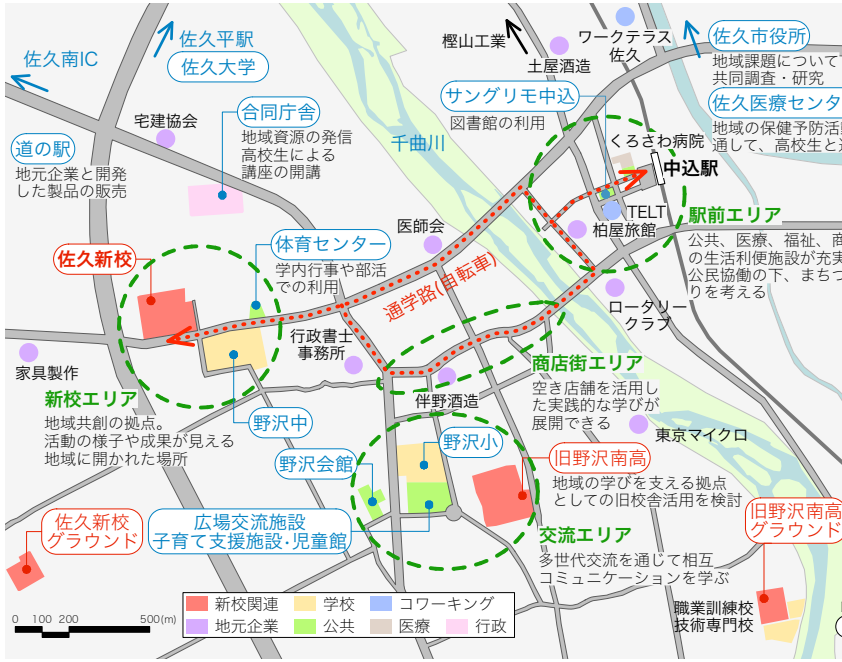
●敷地内で学校機能を維持する工程計画  
 ・工事中に敷地内で野沢北高校が継続可能な工程計画を検討します。  
 ・段階的整備と近隣施設の活用により仮校舎を最小化し、コストを抑制します。  
 ・工事範囲を明確に区分することで、工事中の安全性確保に留意します。

**【フェーズ1】**  
 想定15ヶ月(R8.4~R9.7)  
 ・屋内運動場、武道場、プール、部室等を解体  
 ・プール、普通教室(20室)+地域連携等を建設  
 ・仮校舎(管理+特別教室)を建設

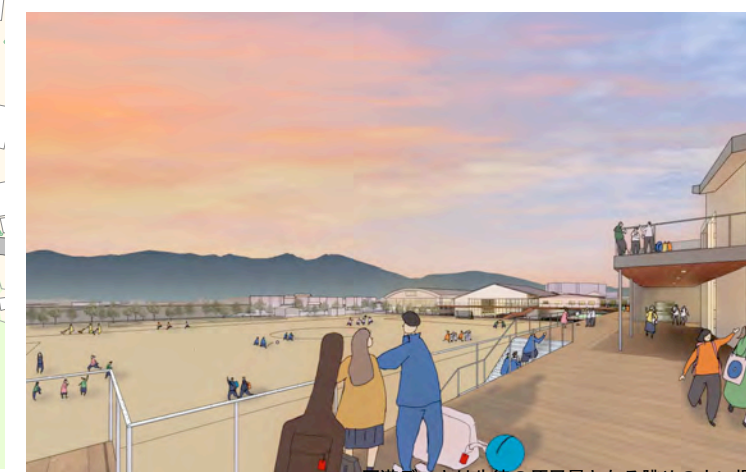
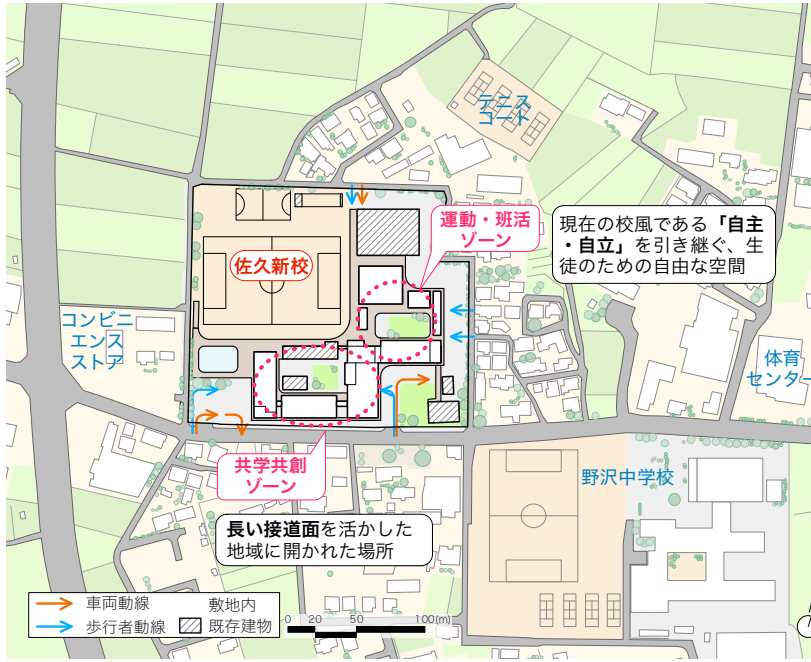
**【フェーズ2】**  
 想定18ヶ月(R9.9~R11.3)  
 ・③、④部室等を解体  
 ・普通教室(8室)+特別教室+管理、屋内運動場、武道場、合宿所等を建設  
 ・①を改修  
 ・工事完了後仮校舎を解体

## ①敷地条件への建築的アプローチ ■佐久新校が地域とつながり、佐久らしさ・野沢らしさを活かした新しいまちをつくる

- 野沢エリアをウォークラブルなまちに再生する
  - ・佐久市の良好な気候や風景、子育てや教育への高い意識を活かした新校を構想します。
  - ・新幹線駅を中心として発展する佐久平・岩村田エリアに対し、野沢エリアは『ウォークラブルなまち』に再生することを目標とします。
- 探究的な学びにより「まち全体」が学びのフィールドになる
  - ・佐久新校では探究学習を通して、校内に留まらず地域の様々な場所に学びを展開します。新校がまちづくりの拠点となります。
  - ・地元企業や行政、教育機関や医療機関が新校の学びに参加することで、より実践的、学際的な学びが実現します。日本や世界で活躍すると同時に、地域に資する人材を育てます。



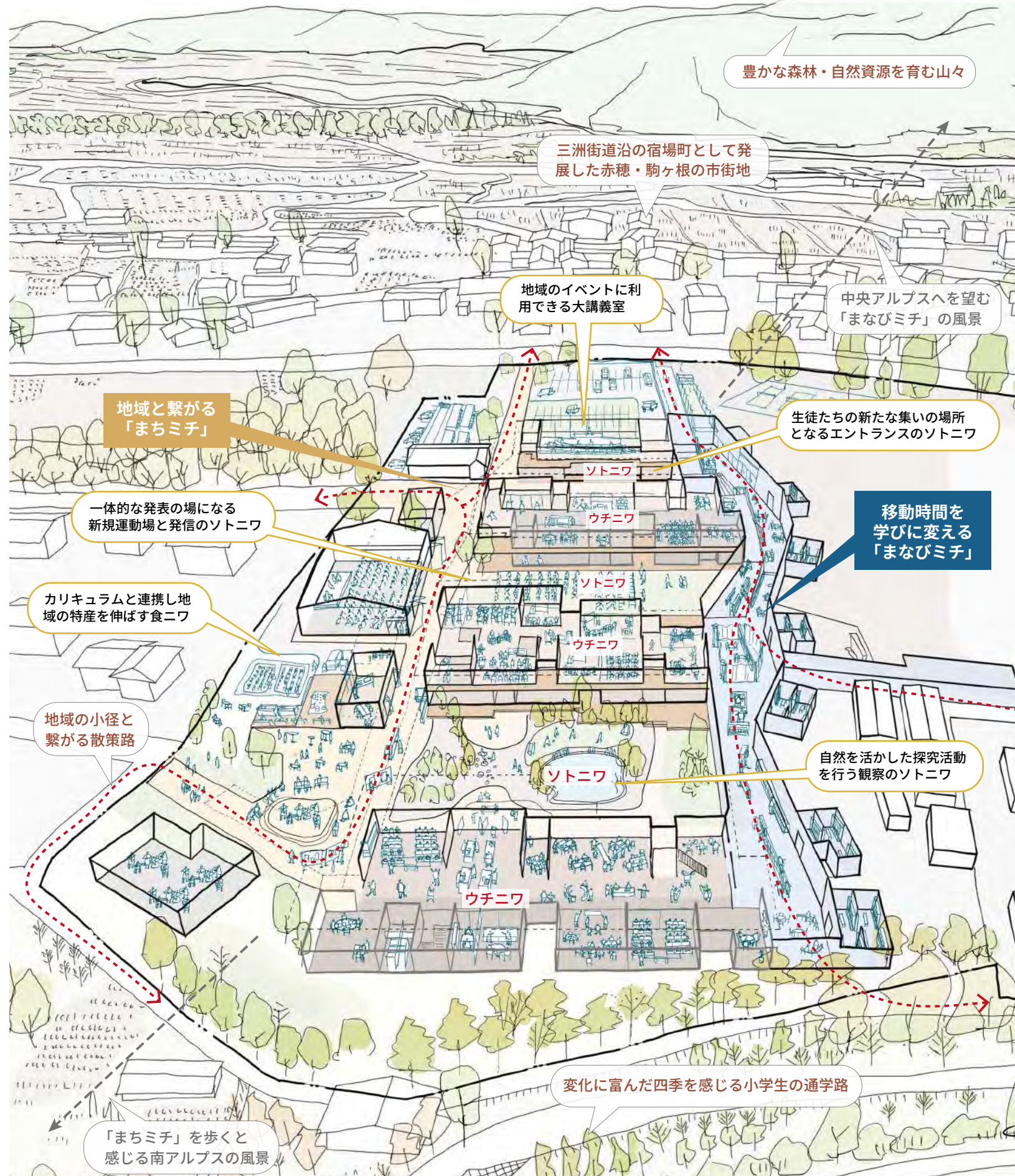
- 地域への接続と生徒の活動の場が両立する敷地利用計画
  - ・敷地の接道長さを活かし、通りに開かれた建築とします。歩行者が学校の様子を感じられる、歩きたくなる道をつくります。
  - ・来校者がアクセスしやすい位置に『共学共創ゾーン』を配置します。生徒の自主的な活動の場となる『運動・班活ゾーン』はその奥に配置し、落ち着いた生徒の生活空間を確保します。





# “まち”と“まなび”のふたつのミチが織りなす学びの循環

中央アルプスと南アルプスに囲まれた自然豊かな街に建つ赤穂総合学科新校は、まちの風土や文化、産業の学びを通じて、これからの多様かつ共生の時代を生き抜く総合的な人間形成の場になることが期待されます。そこで、私たちは歴史ある三洲街道を継承し、“まち”と“まなび”のふたつのミチを通すことで、地域社会とのローカルなつながりと時間や場所を超えたグローバルな学びの両方を併せ持つ学校をつくります。その両者が関係し合い、学びの循環を生むことで、赤穂独自の新しい総合高校を目指します。



## 地域の小径を拡張する2本のミチ

赤穂南小学校の通学路を構成する小径を拡張し、赤穂新校に“まちミチ”と“まなびミチ”を引き込むことで、まちミチでは小中学生を含む住民と生徒の活動の共有、まなびミチでは学習と生活や部活動など、有機的な繋がりをつくります。



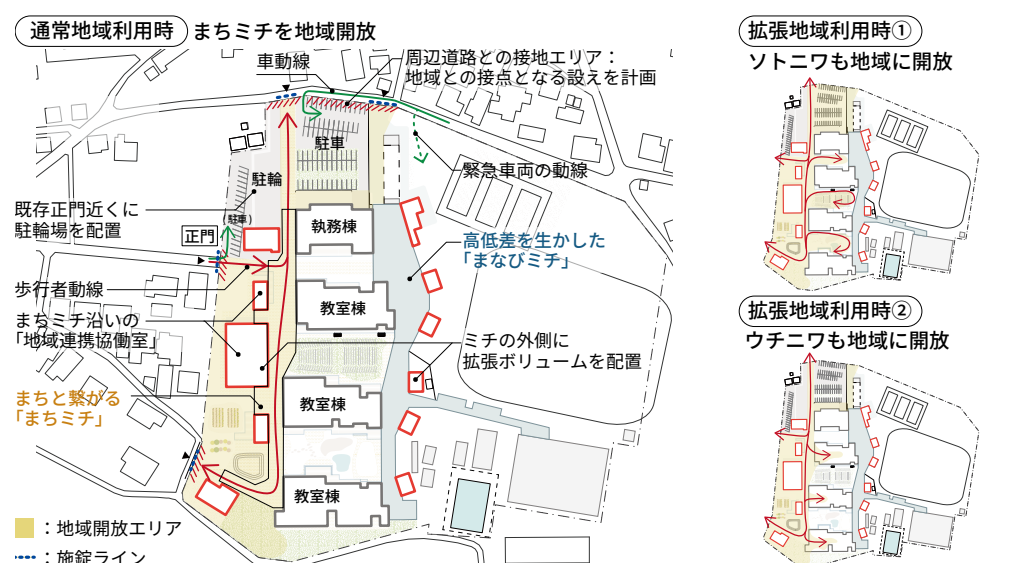
## 既存建物に考慮した配置案の検討

既存建物に考慮をしながら、可能性としての3つの配置パターンを検討しました。周辺の街並みへの連続性や、教室棟への方位を踏まえた採光通風の状況から、パターンAの分棟接続案が最良と考えています。

案	○A案 平行配置	○B案 中央集中	○C案 口の字
快適性	○各棟へ通風・採光が可能	○各棟へ通風・採光が可能	×新築部の西日が課題
動線	×各棟が離れている	×各棟が離れている	○室がまとまっている
屋外空間	○教室と広場が近接する	×教室と広場が離れている	○中庭を活用できる
木造	○容易	△少し困難	△少し困難
階数	○2階建て	×3階建て（階高低い）	○2階建て
建替え	○棟ごとの建替えが可能	×規模が大きいため困難	×各棟が近いため困難
まち並み	○周辺に配慮したスケール	×周辺に対して大規模	×周辺に対して大規模

## 周辺環境と敷地条件に配慮した配置計画

- 教室や大講義室を4つのボリュームに分節してその両端を東西のミチで繋ぎ、さらに周辺へと関係を拡張するボリュームをミチの外側に配置します。
- 高低差を多く含むこの敷地では、周辺道路と接地する箇所に地域との接点を設けるとともに、敷地内の高低差を吸収したミチの設計を行います。
- 歩車の動線を明確にゾーニングします。
- まちミチを地域開放の拠点としながら、行事によってはソトニワでもイベントを共有するような、まちと共にある高校を目指します。



拡張地域利用時①  
ソトニワも地域に開放

拡張地域利用時②  
ウチニワも地域に開放



